

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホーム  
 淡路ふくろうの郷  
 広報委員会  
 洲本市中川原町  
 中川原28番地1  
 TEL:0799-25-8550  
 FAX:0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

暑い日が続きますね。ふくろうの郷の事務室は冷房をほとんどもつけませんので、わずかな温度変化にもみんな敏感です。涼しい風が一瞬、部屋を吹き抜ければ、「いい風だねえ」と、みんなですさな幸せを感じ合っています。熱中症と文明の利器にも依存しすぎること、半々に注意しながら、この夏も耐え抜きたいです。

猛暑が続く7月18日(日)、入所者のみなさんに涼を感じていただこうと、中川原地域交流会主催でソーメン流しが行なわれました。

会長の北岡肇さんを始め、会員のみなさんは前日から竹の切り出し、予行演習を重ねられ、当日は、ふくろうの郷の玄関先に約20mの巨大ソーメン流しが作られました。

ソーメンは実栗ろうあ協会のみなさんが寄贈してくださった「最上級揖保乃糸(箱入り)」でした。

入所者からは「何十年ぶりにおいしいソーメンが食べられた」「長い人生でソーメン流しは初めて」と感激の声が多く、とても好評でした。

北岡さんは「恒例の行事にしよう」と意欲的で、ふくろうの郷の名物行事になりそうです。

(・:辻)



## 涼を感じてソーメン流し

みんなが暑くないよう、竹に沿ってテントが張られました。



▲スムーズに流れます。



少年の心を持ち続けていらっしゃる  
素敵な地域交流会のみなさん▼



すくえただあ！



(写真右) 谷さん夫妻は仲良く  
温かいソーメンを食べました☆

## 今年も参加しました★

### 第63回 淡路島まつり



デフ・あわじふくろう連、スタートします！



はっぴに染み込んだナフタリン(防虫剤)の香り、それは夏の香り・・・  
 今年も淡路島まつりのイベントの一つ、阿波踊り

大会に参加しました。きれいに踊ることよりも参加することに意義がある。にぎやかな夏の夕暮れでした。





▲ 淡聴協の会長さん



写真左「ええそ」と日外さん



▲ 列を乱さないように注意



サングラスを黒通して見る世界は白黒です。

まつりの様子をほんの一部ですが、ご紹介します。来年は「キラキラ拍手」がもっと観客のみなさんに浸透するといいですね☆ 頑張りましょう！



来年もみんなで参加！



(写真左) お祭りはおめでたいよね



▲ 手話サークル会員さんと彼女のお子さんとパシャリ～☆ かわいいですね！



▲ まとい担当は今年も魚住さんです。

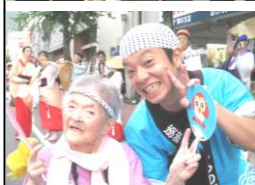
「ほんま暑いなあ」と岩瀬さん。(写真左)



▲ 中川原地域交流会のみなさん。そうめん流しに続き、ありがとうございます！

(写真左) ハチマキが似合う☆

中村さんからのアングル指定でパシャリ～☆ (写真右)



# 毎日新聞記者 萩尾さん来る。8月下旬の毎日新聞は必読です！

「またおいで」という手話に見送られて、3泊4日の「住み込み取材」にピリオドを打ったのは7月6日の昼下がりでした。あれからはや一ヶ月、ふくろうの郷で感じた清々しいほどの開放感は何だったのか、と自問しています。

ゆったりと移ろう時間、緑あふれる里山のたたずまい、お花畑のように咲く手話の花。そこには、穏やかに向き合う人々の温もりがありました。

荷をほどく間もなく始まったバーベキューの宴で、地元の方々の青年たちと阿波踊りに興じる新居文男さんの破顔一笑。朝な夕なにくゆらす山口頭蔵さんの至福の紫煙。「キユ、キユ」という特徴のある足音で登場した竹辺正



▲ 山口さんと萩尾さん

萩尾さんは今回、「ともい歩てさく手話の探訪記」という連載を7～8回の間で読みます。読者のみなさんが楽しんでくださいね！

晴さんには懇意にしていたので、似顔絵まで描いてくれました。黒崎時安さんの日焼けした顔は、少年時代に川遊びを教えてくれた近所のじいさんにそっくりで、谷家と勝楽家のご夫妻の仲むつまじい姿は実にほほえましかった。そして、盲ろうの藤本紀代さんは、僕がへたくそな触手話であいさつをすると、泉からあふれるように尽きぬ話を聞かせてくれました。

新聞記者という仕事は、「一期一会」の積み重ねです。一度、知己を得た方々との絆が何よりの財産です。皆様と暮らしたかけがえのない体験を、8月後半に毎日新聞で始まる連載記事「ともに歩く 手話の探訪記」につづります。言葉やコミュニケーションシオンって何だろう？ 問いを重ねながら、耳の聞こえない方々を訪ねて歩いた記録です。人と人がともに生きるために、大切なことは何だろう？ 性根を据えて記します。

毎日新聞記者

萩尾信也

### 第9回ふくろう学習会 7月24日



▲講演の冒頭で☆

昨年11月に引き続き、立命館大学石倉先生をお招きし、今回は「認知症」をテーマに講演していただきました。

まず、職員が認知症を持つふくろうの郷の入所者Kさんのレポート報告を行い、それを受けて先生が若年性認知症のクリスティーンさんや奈良にある特別養護老人ホーム「あすなら苑」の事例を引き合いに出されながら、認知症について、また認知症をお持ちの方々の心理状況などを分かりやすく講演してくださいました。

一般的に「認知症」と聞けば、「大変」「目が離せない」「世話が必

つ方が多いと思います。しかし、介護する側にその方のことを否定せず、受け入れる気持ちがあればクリスティーンさんのように前向きに生活できる方も中にはいらっしゃいます。

日本も高齢社会となり、「認知症」も昔と比べるとより身近なテーマになっていきます。人によるとは思いますが、認知症を発症したことにより、深い絶望感・不安・戸惑いなどを感じられる方もいらっしゃるでしょう。その感情を共有し、受け止め、どうすればその人らしい生き方ができるのか、尊厳を損なわず、共に歩いていくことができるのかを一緒に考える、という姿勢が介護職の我々だけではなく、社会にも求められているのではないかと、ということを考えさせられた2時間でした。

(…濱田)

### リレーモセイ「消費税10%に思う」 評議員：八木勝光

菅首相が先の参議院選挙で、消費税10%を唐突に打ち出し、民主党が大敗を喫しました。現行の消費税は5%ですが、10%と言えば、倍の増税、100%の値上げ率です。

国民に日常的な痛みをあまり感じさせずに弱い者からじわじわと吸い上げる、これが消費税の怖さです。

一世帯(四大家族)あたり年間約十六万円の増税になると試算されています。これを当法人の会計で

試算してみますと、現行でも年間五百万円近くの消費税を負担しており、これが10%になると、同じく五百万円もの増税になってしまいます。五百万円と言う

と当法人の七十数名の職員の年間定期昇給額に近い金額です。昨年度、今年度と経営状況に鑑み、恥ずかしながら100%定期昇給をすることができなかった当

法人にとって五百万円もの増税は、または職員に犠牲を生じさせざるを得ない条件を強いられるのではと懸念されます。

菅首相の消費税増税の理由のひとつが『日本の高すぎる法人税率を下げて、国内企業の国際競争力を高めること』にあるそうですが、消費税が導入されてこの二十一年間、国民から吸い上げた消費税額が二二四兆円、大企業の減税された法人税額が約二〇八兆円と、ほぼ同額になっているとの統計が発表されています。福祉のためにと導入されたはずの消費税が、福祉



福祉予算の増額を訴える

八木評議員

はよくならずどこに消えたのが、よくわかる統計です。

大企業はこの法人税軽減もあって内部留保をこの二十一年間で一五九兆円から四二九兆円と三倍増しています。しかし、一方では正社員の非正規化や派遣切りを行い、社会的指弾を受けたのは記憶に新しいところ

です。そしてもう一方では、年間報酬額が日産のゴーンさんの約九億円を筆頭に、一億円以上の役員が二四〇人(六月現在)もいて、今後更に増える見込みというではないですか。労働者を切り捨て、経営者側には大盤振る舞いをするという始末です。そんな大企業の儲けを更に確保するためとか思えないような消費税増税、もう、これ以上国民やわれわれ弱小法人をいじめるのはやめてほしい。そんな勢力は国政から速やかにご退陣をと願うばかりです。



# 地域を語る

## 第20回 安坂に伝わる民話

### 「大男の足跡」

北岡 肇

むかし、背の高さが二十丈余り(60メートル余り)もある大男がいました。「ひとつ、日本中を旅行してみよう。」金沢、富山、京都(これらの地にも大男の足跡が残っていたという。)などをまわって播磨へやってきた大男は、海のむこうにみえる淡路島をみて、「ああ、なかなかすばらしい島じゃないか、行ってみよう。」と、ひとまたぎで淡路島へ渡ったのである。

その男の歩幅は七・八里(28〜32キロメートル)もあった。その時の大男の足が、安坂(洲本市中川原町)と塔下(五色町鮎原)との境のあたりに、残

っていたという。

淡路島へ渡った大男がその後どこへ行ってしまったのか誰も知らない。

※郷土の民話

(淡路篇より)

参考「淡路の郷土誌」「味地草」の記述に中川原安坂に「大人」の地名あり、それによると「伝説に  
おむかし  
往昔、長二十丈余りの人  
北海より南海に通る足跡  
にして播磨より一跨に飛  
はりま  
ひとまたぎ  
な  
すべり  
ちて今足の形定かなら  
ず、大人と呼ふ所の畝号  
は當国(淡路の国)所々に  
ありて村説も又同じ」、  
(この他、全国各地にも同  
じ伝説あり)



○印・安坂と塔下の境あたり

# HPリニューアル

社会福祉法人 ひょうご聴覚障害者福祉事業協会

TOP 法人 淡路ふくろうの郷 淡路聴障者センター おのころの家

写真左はトップページです。これからはもういろいろなページを追加準備中です。

現在、ボランティアを募集しています。皆さんのお力、お待ちしております。

2010年06月06日(日) 当ホームページをリニューアルしました。

2010年06月05日(日) 『言葉でつながる』に関する「一般事業主行動計画」について掲載しました(告知)

2010年06月03日(日) 3月行事の写真を載せました。(淡路ふくろうの郷)

2010/07/24 第9回ふくろうの郷学習会のお知らせ

2010/07/18 中川原地域交流会のイベントとして、淡路ふくろうの郷で「ぞうめん」をします。一緒に食べましょう。

情報量が大幅にアップ！ 法人の事業別に分かりやすく紹介しています。

淡路ふくろうの郷開所までの経過や、中川原地域との交流など、たくさんページが追加されていますので、ぜひぜひ、ご覧下さい。

HPに関するみなさんのご意見、ご感想もお待ちしています。(HP上からお送りいただけます。)

ふくろう喫茶 8/15 13:00~15:00

ふくろう喫茶に遊びに来てくださいね

- ・コーヒー・ココア
- ・カルピス など ¥200 より

おのころの家の俳句

夏ばてや 色々あるけど 昼寝かな (佐藤邦弘作)

難聴の方で、週二回、おのころの家に来られています。最近、暑くて少々「夏バテ気味。解消法はもっぱら昼寝です。

地域の活動支援センター「おのころの家」の通所者さんが作られた俳句をご紹介します。



一年間の私たちの取り組みを写真満載で分かりやすくまとめた、平成21年度事業報告書が完成しました。

本のご紹介

私は誰になっていくの？

私は私になっていく

第9回 ふくろう学習会での参考図書でした。

『私は誰になっていくの？』 『私は私になっていく』 かもがわ出版

かかし作り 8月29日(日) 13時~ふくろうの郷

今年も「ふくろうかかし」を作ります。只今、案山子に使えそうな古着・古布等、集めています。ご協力よろしく願います。